



みなみ

宇都宮南高 P T A だより

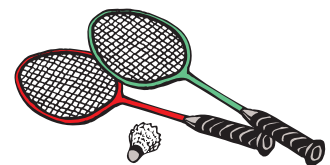
第 76 号

発行日 平成22年7月20日
 発行者 栃木県立宇都宮南高等学校
 P T A
 編集者 栃木県立宇都宮南高等学校
 P T A 広報部
 印刷所 (株)松井ピ・テ・オ・印刷
 〒321-0904 宇都宮市陽東5丁目9番21号
 TEL 028 (662) 2511



宇南球技大会 6月1・2日

今年の総合優勝は
3年1組
でした。



今年もよろしく



携帯電話を悪者にしないで

PTA会長 川島 信一

宇都宮南高等学校というところ、スポーツの盛んな進学校という事で、昨年も国公立や県内や首都圏の私立大学など、卒業生のほとんどは進学しています。しかし、昨年の学校評価アンケートでは、大変シヨックな事に、平日の家庭学習時間ゼロが約三分の一を占めていました。一月の学校評議員連絡会でその原因として、携帯電話があげられました。

携帯がもたらす悪影響ははかり知れません。漢字に弱くなりますし、目も悪くなる。家での

会話の妨げにもなるし、お金もかかる。悪いサイトへのアクセスも心配だし、電磁波だって悪いかもしれません。長時間携帯を見ていれば家庭学習時間はなくなつて、当然成績は低下していきます。

しかし、高校生とえば今や携帯は必須アイテムと言われている。家族との緊急連絡はもちろんのこと、部活の連絡や、クラスの連絡もまわすために必要な場合もあるようです。情報入手は手軽で、連絡手段としても便利です。そのほか利点としては、しゃべったり、電話で話すことはできなくても、メールならできる人が多いそう

です。携帯の登場によって垣根なくメールというアイテムで入っていることは、良いのではないかと思います。それと、これからはどんな職業でもコンピュータ社会から逃れることはできません。PCの端末要素のある携帯は、その練習台としては最適なのではないかとという意見もあるようです。

携帯を持った場合には、家庭内でルールを作つて上手に使つてほしいと思います。たとえば、食事中は携帯を使わない。料金を見て使いすぎていけば取り上げる。自分の部屋では携帯を使わない。NTTのフィルタリングを利用する。変なサイトは見

ない。住所・電話番号はいわない。朝登校したら電源を切る。授業中は電源を切る。など……。もつと良いルールがあるかもしれません。皆さん、ご家庭内で話し合つて、良いルールがあったら教えてください。



「さわやか宇南」について

校長 田中 重夫

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援とご協力をいただき、お礼を申し上げます。生徒そして教職員が一体となつて活力ある学校づくりを推進できることは、ひとえに保護者の皆様の支えがあつてこそと考えております。

ご存じの方々は多いと思いますが、まず「さわやか宇南」の由来を紹介します。

本校の教室棟の前庭に、校章をかたどつた庭園があります。昼休みには生徒たちがこの前庭で食事したり、談笑している光景が見られます。この前庭の

西側には、部活動の顕彰碑があります。創立20周年記念誌によりますと、本校の部活動における全国的活躍を永く伝えたいという趣旨で建てられた記念碑です。この記念碑建立の発端は、本校野球部が甲子園出場を果たしたことからです。このときのさわやかな活躍の印象が、マスコミにより「さわやか宇南」と紹介されました。ここから「さわやか宇南」のフレーズが定着しました。なお、この記念碑の銘は「飛翔」、書は元栃木県知事の渡辺文雄氏によるものです。次に、「さわやか宇南」を支える、生徒諸君や保護者の皆様の本校に対する思いの一端を紹介いたします。

昨年九月に全校生と保護者の皆様に実施した学校評価アンケートです。毎年実施しているアンケートですが、この度の回答状況は、生徒が99%、保護者の皆様が88%でした。

A活動への積極的な参画を感じております。保護者の皆様の高い評価は、うれしく思うと同時に、我々教職員も同様に一丸となつて生徒たちを育てていかなければという思いを支えるものです。

主な内容を紹介いたしますと、学校のイメージについて、「本校にはよい伝統と校風がある」では、生徒の70%、保護者の皆様が80%が良い伝統と校風があると回答しています。

また、この項目を前年度と比較しますと、生徒の評価が10%伸びています。また、「本校の教育活動に関心がある」では、85%の保護者の皆様が関心を持っていると答えてくださいました。実際、本校への支援とPT

です。

三 学 年

最終学年をむかえて

三学年委員長 押山 真弓

昨年に引き続き第三学年委員長を務めさせていただくことになりました。昨年度はみなさまのご協力で無事終了することができました。ありがとうございました。

「手が要る」「手がやける」「手を煩わす」など『手』の付いた慣用句には、手数や世話といった意味のものが多くあります。高校三年にもなると、このような慣用句のつく子育てから卒業直前のような気がします。

来年三月の高校卒業まで、もう数えるほどの日にちしかありません。あつという間の三年間です。しかし、この残りの在校生活が、今後の将来を左右することになるかもしれません。子供の努力もさることながら、親として、社会人として、先輩の背中を見せながらも真摯に向きあつて、春を笑顔で迎えることができるようにしたいと思えます。

P T A 活動を通して成長できたことに感謝しております。今年度もみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

二 学 年

真ん中二年生

二学年委員長 笠間 恵子

今年度より第二学年の委員長を務めさせていただくことになりました。昨年度は役員としてP T A の行事等に携わりましたが、皆様のご協力を得ることでつたないながら無事一年を終えることができました。大変感謝しております。

子どもたちは二年生に進級し学校にも慣れ充実した毎日を送っているかと思えます。気を抜いてしまいがちなこの中間の学年ですが、将来を決めていく上で、とても重要な年ではないかと私は思います。右往左往していた昨年、来年は自分の将来を決める決断をしなければいけません。大きな希望を持ちながらも冷静に考えられる時期ではないでしょうか。良い選択ができるように、家庭でも協力したいものです。今年度は、大学の見学や修学旅行などの大きな行事があります。これらを経験して多くを学び自分の未来を見据えていけるよう願います。

皆様が無理をしないで参加できるP T A 活動を目指して努力してまいります。

一 学 年

成せば成る

一学年委員長 鈴木 宏美

一学年委員長を務めさせて頂くことになりました。皆様にご協力を頂きながら頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

高校時代に「成せば成る。成さねば成らぬ何事も。成さぬは人の成さぬなりケリ。」という言葉に出会いました。言葉は知っていたもののこれが今でも名君と語えられる米沢藩主上杉鷹山公の言葉だという事は高校生になってから知ったのです。財政の逼迫していた米沢藩を建て直すには、様々な困難があったと思いますが、この「成せば成る。」という信念で困難に立ち向かった事でしよう。私もたいがいの事は、やる気にさえなればできると信じています。例えば目標に届かなくても目標に向かって努力することが大切だとも思っています。高校時代は、たくさんさんの事に挑戦し、楽しい事うれしい事もたくさんある代りに困難な事にぶつかる事もあると思います。子供達には「成せば成る」で困難を乗り越え、楽しい高校生活を送ってほしいと思っています。



清水(昌)

中村 前原 鈴木 笠間 押山(真) 古田島 山崎 清水 枝村 百目鬼
尾関 篠崎 押山(道) 川島 江連 杉浦 尾嶋

平成二十二年度役員

役職 氏名 出身中

P T A

顧問	田中 重夫	学校
会長	川島 信一	上三川
副会長	江面 昌典	陽南
書記	篠崎 律子	若松原
上野 勝弘	宮の原	
杉浦 八重子	古里	
尾嶋 弘行	雀宮	
北條 盛夫	学校	
尾関 登喜子	横川	
平野 照男	学校	
渡邊 由美子	石橋	
中村 圭子	旭	
前原 礼子	石橋	
笠間 恵子	石橋	
鈴木 宏美	横川	
古田島 光子	横川	
清水 美智子	瑞穂野	
百目鬼 真由美	南河内第二	
山崎 峰子	姿川	
枝村 理佳	陽南	

部活動後援会

顧問	田中 重夫	学校
会長	川島 信一	上三川
副会長	押山 道昭	旭
書記	藤田 泰	学校
小松 圭子	鹿沼北	
松丸 繁蔵	学校	
渡邊 由美子	石橋	
平野 照男	学校	
清水 昌子	姿川	
篠崎 美和子	雀宮	
村田 伸枝	横川	

新入生に望むこと

一学年主任 飯竹 雅巳

新入生諸君も入学してはや二ヶ月が過ぎました。新しい環境にも慣れ高校生活を楽しんでいく様子が見えますが同時に高校生活の厳しさも実感していることと思います。

先日中間テストが行われました。自分なりに努力したつもりなのに思うような点数が得られず落胆している生徒も多いと思います。生徒諸君にはテストの点数の差は能力差ではなく努力の差であることを認識してほしいと思います。

本校は入学試験によって選抜された生徒の集団です。集団内

の生徒の能力のばらつきは選抜

されていない中学よりも小さく平均はハイレベルになります。能力が同じなら努力の足りなかつた者が負けるのは当然の結果です。思うような点数がとれなかつたのは他より努力が足りなかつた結果に他なりません。

生徒諸君には絶対的に自分の能力を信じてもらいたいと思います。そしてその能力を引き出すための努力を諦めないでほしいと思います。この時期の努力は決して無駄になりません。勉強に部活動に努力を重ね三年後にはそれぞれの幸せを勝ち取ってほしいと願っています。

教職員紹介

(敬称略)



宜しく願います



校長 田中 重夫



教頭 藤田 泰

国語

上段右から
上野 早織 (2の1副)
若目田有紀 (1の6副)
上杉 晃世 (1の4正)
黒川 栄子 (2学年付)
下段右から
栗原 由佳 (3の4副)
幡山さゆり (3の1正)
松丸 繁蔵 (1の7副)
岩上 照朗 (全学年付)

数学

上段右から
木村 敬一
館沼 昇一 (2の7正)
小松崎佐智子 (1の8正)
北条 盛夫 (1の4副)
下段右から
増淵 裕子 (2の5副)
加藤 和雄 (3の6副)
藤田 泰 (教頭)
船山 鈴子 (3の7正)
渡邊真由美 (1の2正)

英語

上段右から
西垣 徹 (2の3正)
足立 一則 (2の6副)
渡辺 聡代 (2の2正)
稲葉 久恵 (1の1副)
保坂 里美 (1の7正)
布川 康則 (1の3正)
下段右から
磯 良則 (3の4正)
長谷川良子 (3の6正)
吉沢 幹夫 (3の2正)
篠原 玲子 (3の5副)
リコ・ネムハード
佐藤 一典 (1の6正)

芸術科・家庭科

江崎 太郎
星野 典子 (2の4正)
北村のぞみ (1の5正)
高久 歳子
赤羽 知子 (2の2副)

「進み」

二学年主任 布村 隆

文系・理系のコースに別れ、今までとは少し違った雰囲気の中スタートをしましたが、なかなか生活にも慣れずようやく友人が出来て、学習と部活動にも取り組み出したところです。

中には、明確な目標を立て生活をしている者、その場に流されて過している者など様々な生徒がいます。

考えて貰いたい、二年生は高校生活の折り返し地点であり、これからの後半戦に体力を温存しておく時期でもある。

進路実現に向けての一年

三学年主任 幡山さゆり

高校生活も三年目を迎え、いよいよ進路実現に向けてのスタートとなりました。最上級生としての誇りを持ち、意欲に満ちた活動の様子が学校生活のあらゆる場面で見られます。

学年のスタートにあたり先日の学年集会では「クラスの団結」と「授業の大切さ」を生徒に強調しました。進路実現は個人の問題ではありませんが、クラスの雰囲気ややる気を育て、友情が元気を与えてくれるものです。クラスの最後の一人が進路を決定するまで、クラスは協力していくという体制をつくっていきましょうと思っています。

とが出来るか。

その為の頑強な意志を持っているかが試される。部活動についても同じである。殆どの部の三年生が引退し、部の中心となって同輩、後輩をまとめ活躍する時期でもある。ここでも、頑強な意志を持って望まなければならぬ。

二年生は、高校生活の中心的な時期です。「中だるみ、中だるみ」と言われますが、逆に言えばその事を十分理解し反省をすることにより、学習も部活動も有意義な物となり自分に返って来ます。

だからこそ、強く皆に望みます。

高校生活の中心にあるのは授業です。授業が理解できて力がついたことが実感できれば、自信もつき、生活も好転していくはずで、授業を大切にすための予習・復習、つまり家庭学習の積み重ねが、何より求められているところだ。

進路実現に向けての取り組みは早々にスタートし、すでに軌道に乗り進められています。私達教師にも「生徒の未来」に対して責任を持つべく、様々なものが求められています。生徒の意欲を引き出し、学びの楽しさが実感できるような「授業力の向上」を目指し、この一年間努力を重ねて行きたいと思っています。



理科

上段右から
飯田 則子 (主任実習助手)
板倉有紀江 (1の3副)
藁科 実 (2の5正)
下段右から
大塚 圭子 (2の7副)
小瀧 貴子 (3の7副)
飯竹 雅巳 (1の1正)
塩谷 博之 (3の5正)

地歴・公民

上段右から
北村 裕子 (2の6正)
柴山 陽子 (3の2副)
齋藤 均 (2学年付)
下段右から
中田 良直 (1の5副)
野沢 光 (3学年付)
安達 常将 (3の3正)
五月女弥生 (1学年付)

体育

上段右から
小橋 可奈 (2の3副)
中條佳津子 (養護教諭)
遠井 努 (3の1副)
鈴木 義孝 (1の8副)
篠崎 悟 (3の3副)
篠崎 淳 (1の2副)
布村 隆 (2の1正)
渡辺 孝司 (2の4副)



事務

上段右から
黒川 有紀 (主事)
長瀬由美子 (主任)
山口 未来 (主事)
小堀美智子 (PTA職員)
下段右から
古川 幸一 (主任公仕)
平野 照男 (事務長)
生井 啓文 (主査)
高橋 佳幸 (技査)

